

姫路顕栄教会

エピファニー・タイムス

【住所】〒671-1152 姫路市広畑区小松町 4-36

編集責任者 牧師・司祭 ミカエル小南 晃

新年を迎えて

～生かされていることへの感謝～

新年おめでとうございます。

しかし新たな年を迎えても手放しではなかなか喜べないのではないのでしょうか。

言うまでも無く、コロナ禍の影が世界全体を覆っているからです。年末年始の帰省も控えた方々も多くおられることでしょう

昨年一年を振り返った時、お正月の時点では中国での新型コロナ感染症拡大を大変な悲劇と思いつつも、どこか対岸の火事のように受けとめてしまっていたのが、すぐに国内での急速な感染拡大、4月には緊急事態宣言のもとイースター礼拝さえも行えず、今では医療の逼迫など思っていた展開になっていったのではと思います。

明日のことは分らない

ヤコブの手紙4：13以下に次のような言葉があります。

「よく聞きなさい。『今日か明日、これこれの町へ行って一年間滞在し、商売をして金もうけをしよう』と言う人たち、あなたがたには自分の命がどうなるか、明日のことは分からないのです。あなたがたは、わずかの間現れて、やがて消えて行く霧にすぎません。むしろ、あなたがたは、『主の御心であれば、生き永らえて、あのことやこのことをしよう』と言うべきです。」

ありがとうの反対語

以前聞いた話でなるほどと感心した言葉

があります。それは「ありがとう」の反対語は何か」というものです。

ありがとう「サンキュー」の反対だから「ノー・サンキュー」と思ったわけですが、そうではありませんでした。

ありがとうの語源は「有り難し」、即ち有る事が難しい、とても貴重だということです。そこには貴重な物、あるいは事柄を与えられての感謝が込められています。

だとすればその逆は何かというと、与えられても当然だとしか思わないこと、即ち「当たり前」に思うことです。だから「ありがとう」との反対語は「当たり前」だということです。

生かされていることへの感謝

ご高齢の方がしばしば「今年も正月を迎えることが出来て有り難いことです」と語られます。それを聞くと「縁起でもない。今年と言わず、来年も再来年も元気に正月を迎えて下さい」と励ましのつもりで言いたくなりますが、しかしそれはむしろ一日一日を感謝しながら大切に日々を送られている証しだということでしょう。

正月を迎えることは「当たり前」、毎朝、目が醒めることも「当たり前」になっていないかどうか振り返ってみたいと思います。

コロナという予想もしなかった災禍を教訓としながら、私たちは「神さまに生かされているからこそ今日がある」ということを改めて感謝と共に覚えたいと思います。

今年が皆様にとってさらに良い年でありますようにお祈りいたします。